

中央図書館（五十嵐キャンパス）ならびに医歯学図書館（旭町キャンパスの分館）に、ラーニング・コモンズがオープンしました。写真は、学長や理事を招いて行われた完成披露式の模様です。



2 ラーニング・コモンズの概要

新潟大学ラーニング・コモンズは、学生たちが、図書館資料とネットワーク資源を自由に使える環境の中で、学部や学年の枠を越えてコミュニケーションを取りながら、与えられた課題の解決に取り組んだり、レポートを作成したり、発表用ポスターを作成したりと、互いに共同して学ぶことができるスペースです。また、教員が授業やゼミを行うことも可能としています。オープンスペースですので、受講していない学生も自由に聴講できるようになっています。

中央図書館ラーニング・コモンズは、285㎡（含メディアラボ 59㎡）。もともと新聞や視聴覚資料の閲覧コーナーだった一画と情報リテラシールームの部分を改修したものです。室内には、ビビッドなオレンジ色の柱を中心に、モダンな流線型の形をしたパステルカラーの大きな机に最新型のPCが設置されています。柱のオレンジ色と椅子の黄色がアクセントとなり、とても明るく魅力的なスペースになっています。

中央図書館では、これまでも80台規模の教育用PCをマルチメディアコーナー等で提供してきました。履修登録からレポート作成ま

.....
特集：図書館のリニューアルと学習支援

新潟大学ラーニング・コモンズについて

竹谷 喜美江

.....

1 はじめに

平成22年4月5日、新潟大学附属図書館の

で幅広く利用されていますが、広さの制約もあって一方向に席がぎっしりと並んでいます。今回のラーニング・コモンズでは、広い空間の中に大きめの机を分散させて配置し、そこに同じ機能の32台の教育用PCを設置することで、マルチメディアコーナーとは趣の異なる快適な空間を実現させることができました。

一方、医歯学図書館（旭町分館）には、120台規模のマルチメディアホールが増床部分にあります。CBTと称する一斉試験の実施のために必須な本格的施設で、日常的に授業での利用も多いのですが、それらで使用されていない時間帯は、PC自習環境として十分余裕があります。そのため、分館ラーニング・コモンズは、比較的小規模な室内に、教育用PCを5台増設して、他の視聴覚機器と併せて提供しています。

その他の備えつけ機器としては、ネットワーク共有のプリンタ2台（分館は1台）、講義やプレゼンに使用するプロジェクタとスクリーン各2台（分館は各1台）、併設のメディアラボには、ポスターや設計図等を作成し出力できる画像編集用PC、A3判対応スキャナ、44インチサイズ対応大型プリンタをそれぞれ各2台（分館は各1台）設置しました。

それから、貸出用のノート型PC（機能は教育用PC同等プラス無線LAN接続）も30台（分館は15台）用意しました。個人所有のPCを持参しなくても、自由に借り出して、好きな席で使用できます。無線LAN環境が2階フロア全面に拡大されたのに伴うサービスでもあります。館内使用に限定して開始しました。

なお、ここで述べた教育用PCとは、情報基盤センターが全学的に配置し提供しているものです。シンクライアントシステムで起動し、個人認証の上で履修登録やメールを使用する学務情報システムと、CiNiiをはじめ各種データベースを提供する図書館Webシステムと両方を利用することができます。もちろん、文書やグラフ、データ作成用の基本的な

Officeソフトを搭載しており、インターネット接続できます。また、本学の学生は、白黒A4サイズであれば年間1,000枚までは無料でプリントアウトできます。

3 ラーニング・コモンズの利用状況

中央図書館ラーニング・コモンズは、入口からすぐ見える位置にあり、4月オープン以来、利用者は後をたちません。最も利用の多い午後の時間帯は、ほぼ連日満席状態です。アンケート結果によると、一度利用した学生の97%が次回も利用したいと回答しています。

これまでの図書館は、館内を「静的な空間」として静粛に利用することを利用者に喚起してきましたが、ラーニング・コモンズ開設を契機として、2階フロアの一部を利用者同士が声を出して相談しながら学習ができる「動的な空間」として開放することにしました。



4 ラーニング・コモンズ開設までの経緯

新潟大学では、第2期中期目標・中期計画（平成22～27年度）の策定に先駆けて、学長ビジョンを具体化するための「アクションプラン2009」を公表しました。7つの重点目標うちのひとつ「快適な環境形成」の中で、「情報環境の整備」および「図書館の環境整備」の事項を掲げています。

新潟大学には、附属図書館、情報基盤センター、旭町学術資料展示館の3組織によって構成される学術情報基盤機構という上位組織（事務組織としては、学術情報部が対応）があ

ります。この機構では、研究担当理事でもある仙石機構長のもと、情報化推進担当の西村副学長とも連携して、平成 20 年度後半、機構運営会議の下に「学生の情報環境整備に関する専門委員会」（委員長が矢田附属図書館長）を立ち上げての検討を行いました。その結果、無線 LAN 等によるネットワーク環境の整備、共同的・自主的な学習を行うための情報環境の整備、自習用 PC の個人所有の推奨、教育における PC 活用の検討、などの内容を盛り込んだ「学生の情報環境整備の方策について」を策定しました。この提言を立てて、ラーニング・コモンズについての全学的コンセンサスを得ていくように努めました。

一方、附属図書館では、ラーニング・コモンズ整備を具体策の柱として据え、初期の姿でもよいので早期に設置しようと模索しました。既存スペースの一部を改装して平成 21 年度初めからと、学内的に予算の目処が立とうとしていたのですが、補正予算の話が持ち上がり、全学の無線 LAN 拡充を中心とする設備要求にラーニング・コモンズ設備も加えた形で提出することとなりました。運良く予算が付いて実現に向かう運びになりましたが、採択待ちに加え、政権交代で入札行為に一時ストップがかかるという予想外の展開もあり、スケジュールは大幅に遅れました。また、補正予算による整備は、設備に限られていたので、無線 LAN 設備、PC や大型プリンタなどの機器調達に当てられた一方、OA フロアやパーティション取り付け、室内壁面の塗装、机・椅子等什器の調達には、さらに学内予算が工面される必要がありました。

実際の整備作業は、平成 21 年秋以降、春休みを睨んでの突貫工事的な事態になりました。着手が遅れた分、国際基督教大学をはじめ、東京女子大学やお茶の水女子大学などの先行事例を視察させていただき、サービス内容や施設・設備等について情報収集に努め、ラーニング・コモンズの重要な要素である、快適

なアメニティ空間の整備をめざして検討が深まった面もありました。そうして、年度末までに改装や備品納入を無事終え、平成 22 年度初めからの運用に間に合いました。

5 今後の運営計画

当初より、ラーニング・コモンズには人的支援を不可欠な要素として構想しています。具体的には、ラーニング・コモンズを利用している学生からの、レポート作成に関する質問や履修に関する相談などにアドバイスできる経験豊富な大学院生による「ラーニング・アドバイザー」を配置することです。学部や学年を越えたコミュニケーションが行われる中で、学生たちの自主的学習の場が育っていけばよいと考えています。今年度中には試行を行い、実現を目指したいと思います。

一方、ラーニング・コモンズは、学生の自習スペースのみに限定してしまうのではなく、教官による授業やゼミの場としても、柔軟に運用していく方針もあります。既に実験的な授業を行い、教官や学生から良い評価をいただきました。FD 活動の一端として貢献できればと考えています。図書館も、従来から実施している文献検索ガイダンス等の情報リテラシー教育活動や職員研修の場として活用していきます。

さらに、来年度以降に実現を目指す予算要求上の話ですが、中央図書館については、近い将来の増改築構想をもっています。その中では、今回整備したようなオープンスペースでのラーニング・コモンズを何倍にも拡大するとともに、グループ学習や個別学習の多様な形に対応できる各種スペースをいっそう充実させたいと考えます。また、学内だけではなく、地域の住民も含めたコミュニケーションや憩いの場となるように、多目的ホールや展示スペース、飲食のできるカフェなどを併設できればと考えています。

完成した施設は、従来の図書館イメージの

枠を越えて、本学の学生、教員、さらには地域の住民にとって魅力ある総合的なインフォメーションスペースとなるでしょう。「図書館」を超える、新しい名称が必要になるかもしれません。ラーニング・コモンズはそうした夢の実現への第一歩でもあると思っています。

6 終わりに

今回のラーニング・コモンズ開設は、仙石機構長、矢田館長のもと、友光前学術情報部長のご発案・牽引にて進められ、下條学長以下役員のみなさまのご理解、財務部や施設管理部のご支援も得て、具体的な準備作業を高島前学術情報サービス課長（現福井大学）が担当して実現しました。着任早々でオープンに臨んだ後任の身としては、関係各位のご努力のごく一端を思いやるのみですが、本報告の執筆にあたって多々ご教示いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

（たけや・きみえ／新潟大学附属図書館）